

はじめに

岡山大学文学部には、ジェンダーに関する学部内での異分野横断的研究を永く続けてきた歴史があり、最初の研究会開催は1999年にさかのぼります。

直近では2015年度に、文学部プロジェクト研究として学部内の予算配分を受け、「ジェンダーの多層性に関する領域横断的研究」を実施した後、「社会変動とジェンダー/セクシュアリティの変容に関する分野横断的研究」（2016年度）、「『生きることとジェンダー』に関する領域横断的研究」（2017年度）、「ジェンダーの多層性に関する領域横断的研究2」（2018年度）と、現在まで継続してきました。また、本研究グループが基礎となり、ジェンダーを基盤とする学部内の横断的教育プログラム（ジェンダー・クラスター）も2017年度から始まっています。

2015年度からの4年間には、15回の大小様々な講演会やシンポジウム、学生や自治体との連携企画等を開催してきましたが、その成果物を刊行するまでには至っていませんでした。そうした中、岡山大学が全学を挙げて取り組むSDGsの枠組みにおいて、プロジェクト研究グループが行ってきた「ジェンダー・セクシュアリティの領域横断的研究及び教育実践」を、文学部の実践事例の一つとして申請する機会がありました。17の持続可能な開発目標（SDGs）のうち、「目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」「目標4 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」「目標8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」にとりわけ密接に結びつくからです。結果、SDGs推進にかかわる活動として同取り組みは高く評価され、予算配分がなされることとなりました。このような経緯で、すべての企画を網羅した刊行物にはわかに作成しえないものの、学部内メンバーを中心とする報告内容の一部を今回はピックアップし、広くその成果を共有することとしました。

本報告書が、本学におけるジェンダーやセクシュアリティに関するいっそうの教育・研究活動の発展、ならびにそれに基づくSDGsの推進に寄与できれば幸いです。

プロジェクトを代表して

岡山大学文学部 中谷文美・松本直子・光本 順